

第4回 共通教育再編WG議事要録（案）

日 時：令和3年11月22日（月）17時00分～18時05分

形 態：オンライン会議（Microsoft Teams）

出席者：奥田学長特別補佐（座長）、高橋共通教育主管（初年次部会長、外国語部会長）、
中川人文社会科学部長、岡谷教育学部長、津江理工学部長、菅沼医学部長、枝重
農林海洋科学部長、大石地域協働学部長、塩崎大学教育創造センター長、佐々木
データサイエンス部会長

陪席者：中山学務課長、松田学生課長、西村学務課専門員、岩崎人文社会科学部教務係長、
斎藤教育学部教務係長、福島理工学部教務係長、東学生課教務係長、黒田物部総
務課学務係長、河津学務課全学・共通教育係員、阿賀学務課全学・共通教育係員、
山中学務課全学・共通教育係員

配付資料：

- 第3回共通教育再編WG議事要録（案）
- 教育科目区分の見直しの例示【資料1】
- 高知大学グランドデザイン 2030【資料2】
- 香川、鳥取、岩手大学におけるカリキュラム編成方法の調査結果について【資料3】
＜参考資料＞
- 新しい教育内容・方法の導入・転換WG 最終報告書【参考資料1】
- 国際性を涵養する人財育成システムの構築WGにおける「英語による教育プログラムの開発について」の提案【参考資料2】
- 第4期中期目標・中期計画（素案）【参考資料3】
- Kochi University SDGs Action ver.2（抜粋）【参考資料4】
- 文部科学省による ESD の解説【参考資料5】

議事に先立ち、奥田座長から、第3回共通教育再編WG議事要録（案）について一部修正がある旨が述べられ、確認の結果、異議なく了承された。

【議題】

1. 【継続】共通教育の再編（初年次科目及び担当体制の見直し）について

奥田座長から資料1に基づき、共通教育再編に関し、次期中期目標・中期計画及びグランドデザイン2030に照らした新たな教育科目区分（座長私案）が例示され、これを実現させるための取組の一例として、卒業要件単位数及び分科会の構成例、要検討項目、新たに定める領域・分野への登録調査の必要性等について説明が行われた。

また、その根拠となった高知大学グランドデザイン2030（資料2）、新しい教育内容・方法の導入・転換WG（参考資料1）及び国際性を涵養する人財育成システムの構築WG（参考資料2）の最終報告書、第4期中期目標・中期計画素案（参考資料3）、本学における研

究活動と SDGs との関連調査（参考資料 4）、持続可能な開発のための教育（ESD）の解説（参考資料 5）における該当箇所についての説明があった。

なお、前回WGにおいて依頼した事項と併せて、今回示された座長私案に対する各学部の意見、提案等について、12 月 20（月）までに回答いただくこととなった。

《座長の説明要旨》

前回WGにおいて、各学部に検討を依頼した 3 つの事項については、12 月のWGで回答を集約し協議することとしている。

その中の検討課題の一つ目として、教養科目における履修ルールの見直しがある。前回説明のとおり、現行の履修方法は、外国語を含む複数分野から選択することとなっているが、これを例えば、各分野においてそれぞれ何単位ずつ履修するというように分野指定をするといった見直しが考えられる。さらに、現行の教養科目 6 分野の枠組み及び科目内容の範疇そのものを見直すことも考えられる。これらを見直すことは、共通教育の教育目的と各学部の共通教育に対する教育方針に密接に関係するだけではなく、授業担当体制を検討していく上で大きなファクターとなることも前回申し上げた。

今回、座長私案ということで、資料 1 のとおり新たな科目区分表を作成した。

はじめに、教養科目について 4 つの細目科目群に分けた。1 つ目の細目科目は「問題意識を喚起する科目」として SDGs 関連科目群を挙げた。2 つ目の細目科目は、「生きる力を育む科目」として生活科学、健康・スポーツ・メンタルヘルスをはじめ、文学、哲学、芸術などを含んだものとした。3 つ目の細目科目は、世界観と俯瞰力を培うことを目的として「テーマ別複合領域科目」を挙げた。これはかつての本学共通教育（H10 年度開始のカリキュラム）における主題（テーマ）別科目及び総学科目のねらいに近似、相当するものである。4 つ目は、前回提案した高学年次教養科目である。

このように、現行の教養科目 6 分野を 4 つの細目科目へと変更したものである。

4 つの細目科目のうち、特に SDGs 関連科目群はどのような内容を持つものかについて説明する。SDGs はご存じのとおり、持続可能な開発目標のことであり、ESD は持続可能な社会の担い手、創り手を育む教育（参考資料 5）のことである。昨年度、本学の研究活動が SDGs 達成のためにどのように貢献しているかについて、研究推進課が中心となり調査、分析を行ったもの（参考資料 4）があるので説明する。本資料は抜粋版であるが、本編の詳細は議題表に示した URL を参照されたい。

本資料には、本学の 76% 以上に当たる教員の研究テーマに関し、その研究が SDGs のどの目標及びターゲットに該当するのかという調査、分析の結果（P.64）が示されており、本学の研究活動は 17 の全ての目標と関連していること、また、それぞれの目標には複数の部門や異なる研究分野の教員がいることが分かった。さらに、クラスター解析によって、複数の目標が互いに近い関係性を持っているという集まりが 8 つあるという分析がなされている。

SDGs 関連科目群は、まさに本学の教員により、持続可能な開発目標に貢献している実際の研究活動に裏打ちされた授業内容になるのではないかと考えている。それらの多くは学問分野を越えた研究の取組成果であると言え、学生への強いメッセージとして発信できるものと考えている。

続いて、教養科目の分野指定と単位配当の見直しについて説明する。

資料 1 (P.13) # 1 各学部共通教育卒業要件単位数一覧 (例示) は、座長私案の教育科目区分における区分ごとの共通教育の卒業要件単位数を例示したものである。この表のような履修ルールを策定することで、学生にどのような教育目標やねらいを持った細目科目を何単位履修させるかという、大学側及び学部側からの教育方針を示すことができる。

前回WGにおける検討課題の二つ目は、教員による担当可能授業分野の登録についてである。先般は、現行の共通教育ナンバリング分類に従って担当可能分野の登録をいただいたが、いずれの分類にも当てはまらない教員が多数存在した。ナンバリング分類の範疇を見直し、さらには分類体系全体を刷新することも考えられるということは、前回申し上げたとおりである。

今回、資料 1 で示した座長私案による教育科目区分の叩き台は、現行のカリキュラム構成とは大きく異なっており、特に教養科目の細目科目については、これまでにない括り方となっている。そのため、仮にこのような教育科目区分でカリキュラムを構成する場合には、それぞれの教育科目及びその細目科目に対応する形で、教員に再度、共通教育担当可能領域・分野で授業の登録を行っていただく必要があると考えている。

資料 1 (P.14) # 4 共通教育における担当可能授業科目 (名) または領域・分野の調査・登録に記載のとおり、教員が申告する領域・分野は、新たな教育科目と細目科目等に対応させ、併せて適切な授業科目名 (題目は教員の裁量で決め、仮題を含む) とともに登録してもらうこととする。また、領域・分野及び授業科目名は複数登録できるものとする。

なお、現行の中分類にあたる細目科目の新たな領域・分野及び授業科目名等のフォーマットについては、次回WGで提案できればと考えている。

この担当可能授業の領域・分野及び授業科目名の登録と関連し、もう一つの検討課題として、どのように授業科目及び担当教員を決定するのかということがある。

現行では、カリキュラム等編成部会において各分科会が基本数に基づき、各学部から授業科目及び担当教員を選出する方式を採用している。座長私案による教育科目区分及びカリキュラム構成においても、同様の選出方法を想定しているが、そうした場合、現行の分科会構成のままでは対応できないと考えている。

そこで、資料 1 (P.13) # 2 カリキュラム等編成部会における分科会の構成 (例示) のとおり、教育科目と細目科目に対応する形で新しい分科会の構成及びその組織について例示した。ここでは、教養科目の細目科目だけではなく、初年次導入科目、国際理解・コミュニケーション科目、データサイエンス科目に対応する分科会も挙げている。

本日、座長私案として例示した新たな教育科目区分に当てはめる形で、当該見直しに必要となるであろう取組の一例を紹介した。次回WGでは、これらの座長私案に対する各学部のご意見やご提案をいただきたい。

続いて、今回このような教育科目区分の見直しについての叩き台を例示した理由について説明する。

第1回WGにおいて、共通教育再編に係る実施要綱案について審議する際、本WGは本学次期中期目標・中期計画を踏まえ、初年次科目及び教養科目を含む共通教育全体の教育課程、すなわちカリキュラム再編及び担当体制について検討することをお認めいただいた。

本学はこれからどのような共通教育を構築していくのか、近未来を見据えたそのカリキュラムはどのようなものであるべきなのかは、本年4月に公表された「高知大学グランドデザイン2030」（資料2）にまとめられている。ここには、次期中期目標計画期間を含む今後10年間に本学が目指す教育・研究・地域貢献などの理念、目標、行動計画が詳細に記載されている。したがって、今般の共通教育再編の議論においては、「高知大学グランドデザイン2030」やこの内容の基礎となったいくつかの報告資料及び次期中期目標・中期計画素案における方針等をきっちりと踏襲し、包含する必要がある。

先に結論を申し上げますと、本学がこれからの教育で重視すべきことは、初年次導入教育、数理データサイエンス及び英語を中心とした国際化教育であるということである。これらの教育を実践するためには、本学のカリキュラムとその構成、デザインを刷新する必要があるということを申し上げたい。そのために、本WGの下に、3つの部会「初年次部会」、「外国語部会」及び「データサイエンス部会」を設置し、共通教育の教育内容及び教育方法等の改善について検討を進めているわけである。

それでは、その根拠について再確認を行う。

（高知大学グランドデザイン2030の教育に関する事項（資料2※赤線部）の説明）

（新しい教育内容・方法の導入・転換WG最終報告書（参考資料1※赤枠部）の説明）

（国際性を涵養する人財育成システムの構築WG報告書（参考資料2※赤枠部）の説明）

（第4期中期目標・中期計画（素案）（参考資料3※赤枠部）の説明）

本学のグランドデザインとその元となった関連報告及び中期目標・中期計画素案で謳われている今後重視すべき教育の方向性を踏まえ、共通教育の再編を考える必要がある。これこそが本WGの最も重要なミッションであると考えている。それを実現させるための取組の一つとして、今回、座長から新しい教育科目区分とカリキュラム構成を例示させていただいた。

資料1に戻り、例示した5つの教育科目について説明する。

大学基礎論、学問基礎論、課題探求実践セミナーは、新入生に大学での学び方を教えるための初年次導入科目として配置した。

現行の初年次科目にある大学英語入門及び英会話は、本学がこれから英語教育を重視す

べきとの方針であるので、新たに「国際理解・コミュニケーション科目」を設置し、ここに移設して基軸英語という細目科目とした。併せて、現行の教養科目外国語分野も同様に移設し、国際英語または初修外国語として細目科目に配置した。また、英語で学ぶ EGAP は新規科目として設置した。

続いて、現行の初年次科目にある「情報処理」は、本学が重点的にデータサイエンスに取り組むという方向性を示しているので、新たに「情報・データサイエンス・AI 科目」を設置し、ここに移設することとした。なお、データサイエンス教育推進WGの企画・検討の下、本年度から複数のデータサイエンス関連科目を新規開講し、次年度には、文科省が定めるデータサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル）の認定を受けられるよう準備を進めている。その詳細は、本WGの下に設置したデータサイエンス部会での検討結果によることとなる。

また、データサイエンス教育科目には、数学的思考法、論理学、統計学、プログラミングなどを含むようにしており、将来的には、応用基礎レベル及び専門レベルのデータサイエンス科目へと連携させることも検討されている。

教養科目の構成は、現行の6分野からなる枠組みを4つの細目科目へと変更している。その理由の一つは、高等教育に対して社会から求められている学士力や社会人基礎力などといわれる能力の中身は、極端に言えば、専門知識よりも「汎用力」と「人間力」であるということに関係している。また、このことは、本学の学士課程教育で身につけるべき資質として、10+1の能力を挙げているということに通底している。

二つ目の理由は、教養科目の目的を『社会の中で自分の立ち位置を自覚し、種々の問題について、価値観の多様性を認めながら、専門分野を超えた知識と考え方で解決する柔軟な態度と行動力を養成すること。そして、学生自身が健康で楽しく学び、同時に感性を磨き、自分の将来の夢を叶えるモチベーションを触発し、この世界と社会の中で幸せに豊かに生きていくための基本的なツールを獲得すること。さらに、幅広い分野で習得した知識とスキルを統合し、社会へ働きかける力を涵養するため。』と設定したからである。

共通教育は、これら初年次導入科目、国際理解・コミュニケーション科目、情報・データサイエンス・AI 科目及び教養科目から成り、これに専門科目を加えて、学士課程教育のカリキュラムを構成することとなる。

以上が座長私案による5つの教育科目区分からなるカリキュラム設計の概要説明である。

なお、このような教育科目区分を含む共通教育カリキュラムの再編を行った場合を見据え、今後の進め方や課題等について、資料1（P.14）#3新カリキュラムにおける要検討事項として挙げてみた。一つは各教育科目と細目科目への卒業要件単位数の設定や配当などを学部で決めること。それが決定すれば、各教育科目と細目科目で必要とする開講コマ数を導き出すこと。その後、その開講コマ数に基づいて、各分科会において授業科目及び担当教員を決定すること。また、授業テーマと領域・分野によっては、必要開講コマ数及

び担当教員数等を考慮し、教員の採用や非常勤講師等の人的措置及び財政的支援を行うことなど、これらの課題を解決していく必要がある。次回以降において、これらの点について方向性及び可能な限りでのシミュレーションを示したい考えである。

最後に、前回WGで、大石地域協働学部長から調査依頼のあった件について、資料3 (P.33) にまとめさせていただいた。他の大学（香川、鳥取、岩手）において、学部のDPとCPに対応して、教養科目の各分野における開講科目数をどのように決めているのか、また、開講科目と担当教員を決める教科集団に学部の枠を越えて教員が所属する仕組みがあるのか、というご質問の趣旨と理解し、事務レベルにおいて再度照会いただいた結果、資料の青字部が前回の調査内容に加わった。なお、3大学ともに開講科目数や担当教員の決め方についての明確なルールまたは本音は、はっきり見えてこなかったという結果であった。

回次の第5回WGは、12月27日（月）の全学教育機構会議終了後に予定している。

前回（第3回）WGで各学部へお願いした検討事項の回答は、12月20日（月）までに、学務課全学・共通教育係へ提出いただきたい。また、可能であれば、今回の座長私案として例示した教育科目区分に対する意見も含めて回答いただければ幸甚である。

《質疑応答の概要》

津江委員：資料1の「4. 教養科目」の考え方は重要であると思うので、議事要録で示していただきたい。

奥田座長：早急に作成しお返しする。

大石委員：座長から、教養科目の細目設定に関し、これは共通教育の目的に沿ったものであるという話があったが、その目的は配付資料に記載されているのか。

奥田座長：記載していない。口頭で説明した。本日は例示ということで5つの教育科目区分を示したが、それを実現するためにグランドデザイン2030や中期目標・中期計画素案等に記載されている内容から、共通教育の教育方針というものを私なりに解釈してこのようなカリキュラムのデザインができるのではないかとということを申し上げた。具体的には、議事要録でお知らせしたい。

大石委員：承知した。

塩崎委員：資料1に記載のテーマ別複合科目は、以前存在していた科目であるということであるが、どのような科目なのか説明いただけないか。

奥田座長：平成10年度からの共通教育カリキュラムの教養科目の中に、分野別科目と主題（テーマ）別科目というものがあり、分野別科目は学生が所属する分野以外（異分野）から履修させるもの、主題（テーマ）別科目は教員が研究している内容などを教育に還元する形で現代的なトピックやテーマをつけて開講されていたものである。また、このほかに、総学科目というものがあり、それは総合的、文理融合的に様々な観点から一つのテーマに対しオムニバス形式を含め、理解を深めていくという目的のものであった。

塩崎委員：SDGs やデータサイエンス、デジタルトランスフォーメーション（DX）は、本来であれば、先ほど説明いただいた総学科目のような科目の中で行うべきであると思うが、そうなれば教員の負担も大きく、また、オムニバス形式というのも難しいと思われる。このような学問領域は、特に文系の学生から見た場合、理系の教員の話を書かないと納得のいかないことが多々出てくると思う。もちろん、そこに文系の教員も積極的に関わっていく必要があるが、そのような体制が築けないと学生の中に教育の内容が浸透していかないのではないか。学生の中でそれらを統合できるような仕組みを準備すべきであると思う。

奥田座長：データサイエンスと言えば、理系というイメージがあるが、実際に社会でデータサイエンスの知識やスキルを活かす場面というのは、経済学などの文系の学生の方が多いのではないかなと思う。そのような理由で、文系の学生にもしっかりと学んでほしい。

塩崎委員：大学は、最低限のラインは保障するというスタンスで体制を構築していけば良いと考える。

奥田座長：現実的に、学内でそれらの授業を担当できる教員がどの程度いるのかということは大きな問題である。新任教員を採用する、あるいは理系以外の教員にも授業を担当いただくなどということも可能性としてはあるのかもしれないが、その点は、カリキュラムを実質化していく検討の中で決めていけば良いと考えている。

大石委員：グランドデザイン等をベースに今後の教育を考えるという説明で、数理データサイエンス及び国際理解教育が重要であるとの指摘があったが、今回例示された教養科目の細目科目は、それとは別の論理から来ているように思われる。グランドデザイン等との関連性について、どのように理解すればよいか。

奥田座長：教養科目のねらいに関し、グランドデザイン等では“幅広い知識を涵養する”といった大雑把な記載しかない。説明でも少し触れたが、高等教育では、学士力や社会人基礎力などといった求められる力というものがある。それは、本学で言えば、総合的教養教育の理念であり、まさしく 10+1 の力のことである。

なお、この教養科目のねらいについては、議事要録でお示しするほか、次回 WG において私の方で資料を用意する。

大石委員：この部分は、様々な考え方があると思うので、一つの考え方として座長の考えをお示しいただければと思う。

奥田座長：承知した。

2. その他

なし。